

う ら ・ お も て

物事には、常にうらとおもてがつきまとう。

“地獄の沙汰も金次第”と言われるが、俗世の浮世では、政治・経済・日常生活など、社会いたるところで、人世のうらとおもてが介在して、悲喜こもごもの世相を描き出している。

ところで、うら・おもてのあるのは、人間社会ばかりではなく、自然生物界にも存在し、その影響が農業生産面で、種々の問題を派生させている。果実のうら作・おもて作も、その一つであろう。子供の頃、裏庭に1本の柿の木があって、それが1年おきに実が沢山実る習性を知っていたが、一方でミカンのうら年、おもて年の話をきくと、1本1本の樹がなぜ年毎に一斉に揃って、うら・おもてになるのだろうか、単純な疑問をもった思い出がある。

供給過剰に悩むミカンの需給バランスをとるために、ミカン園転換事業が、54年度から3年計画で21,000 haの転換を目標として、高接ぎ更新をはじめ他作物への転作、さらには廃園まで、あらゆる施策が進められており、関係者のご苦労が痛いほど感じられる昨今である。ミカン需給の安定のためには、当然ながらこれらの諸施策の遂行とあわせて、年毎の生産量のギャップであるうら年・おもて年を均一化させるため、間引き摘果によって隔年結果を防ぎ、生産量の安定化と品質向上をめざすことが、欠かせない重要な作業であろう。しかし、人力摘果は、夏の暑い盛りに大変な手間のかかる作業である。生産者のご苦労を若干でも解放するため、薬剤散布による「摘果」の省力とあわせて「品質向上」を願って、1日も早く新しい摘果剤の開発に努力することが、われわれに課せられた重要

目 次

(第14巻第5号)

農耕地雑草の系統分類と除草剤…………… 2

＜宇都宮大学教授 竹松哲夫＞

1. は じ め に…………… 2

2. 人類と雑草の相互関係…………… 3

3. 農耕地雑草化への条件…………… 3

4. 異なる環境での農耕地雑草…………… 4

5. 農耕地雑草の分類…………… 4

6. 農耕地雑草の系統類縁関係の
理解…………… 5

7. 雑草進化の類縁について…………… 5

8. 農耕地雑草の系統類縁図…………… 6

9. 水田雑草の系統分類と除草剤
の選択性…………… 8

昭和54年度秋冬作野菜花き関係除草

剤・生育調節剤試験成績概要…………… 9

外国文献抄録…………… 20

ナイジェリアとスーダンにおける

雑草防除

新登録除草剤一覧…………… 24

新登録生育調節剤一覧…………… 24

新除草・調節剤

・アロキシジム除草剤…………… 25

・PAC・IPC除草剤…………… 26

表紙の写真は、ケフシグロの種子表皮細胞を走査電子顕微鏡で撮影したもの、星状突起型、550倍。

〔写真提供者：笠原安夫氏〕

な課題と考えている。

財団法人 日本植物調節剤研究協会理事 栗西秀幸
日産化学工業株式会社取締役農薬事業部長